

第2回 介護予防ワーキンググループ	資料1
令和元年8月21日	

第2回 介護予防ワーキング
(令和元年8月21日)

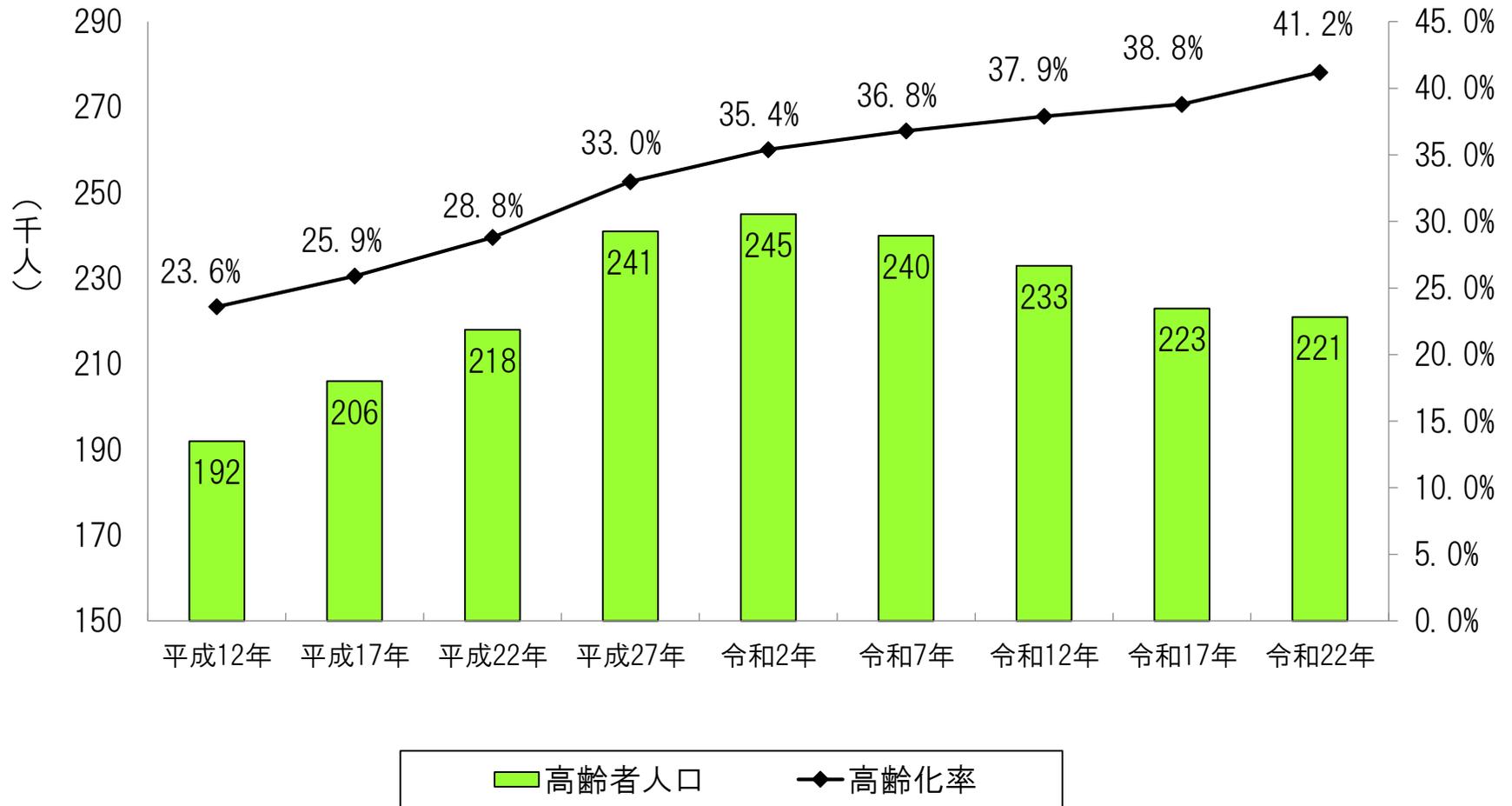
高知県の介護予防の取組について

日本一の健康長寿県構想

高知県地域福祉部

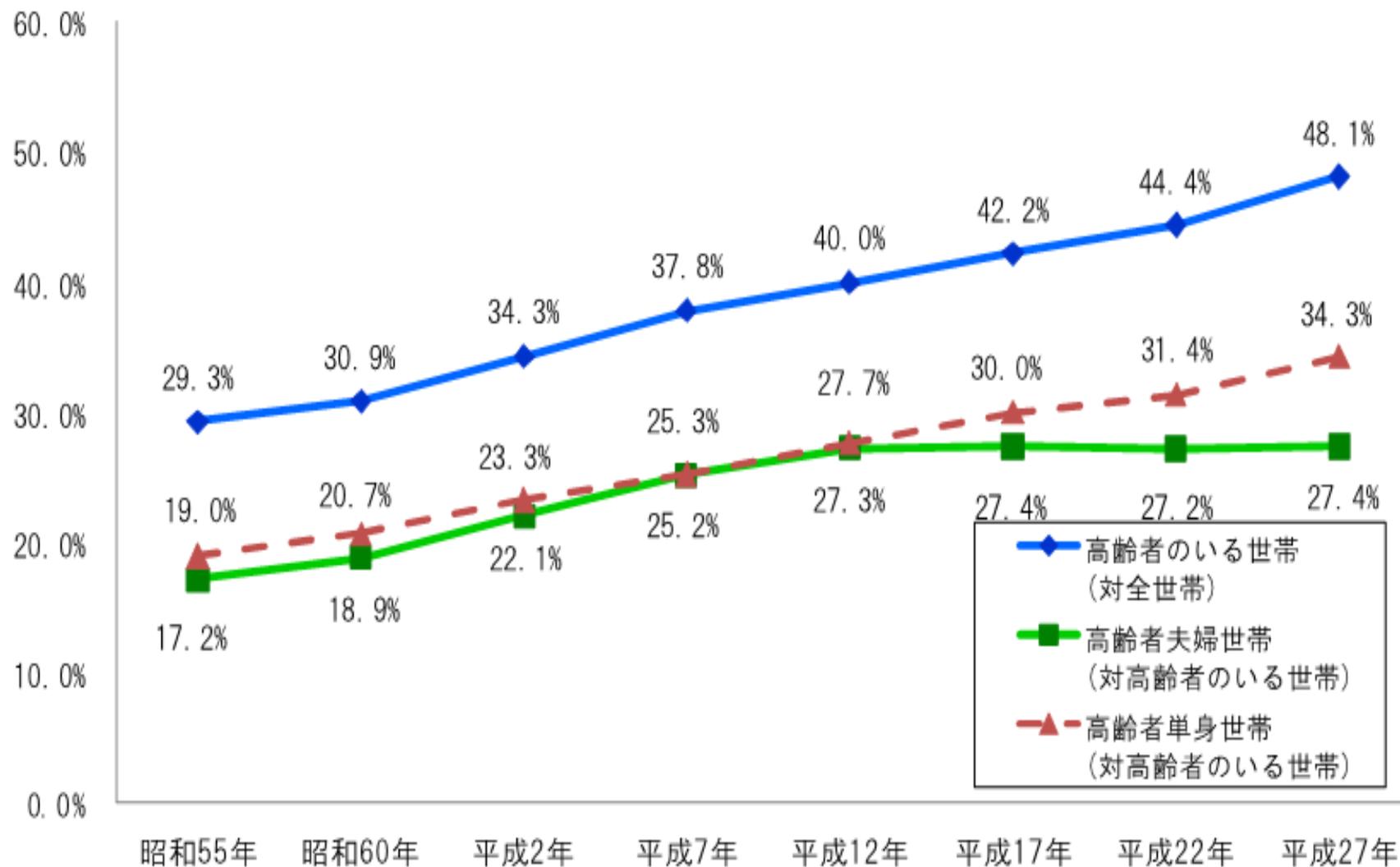


【高齢者の将来推計人口（高知県）】



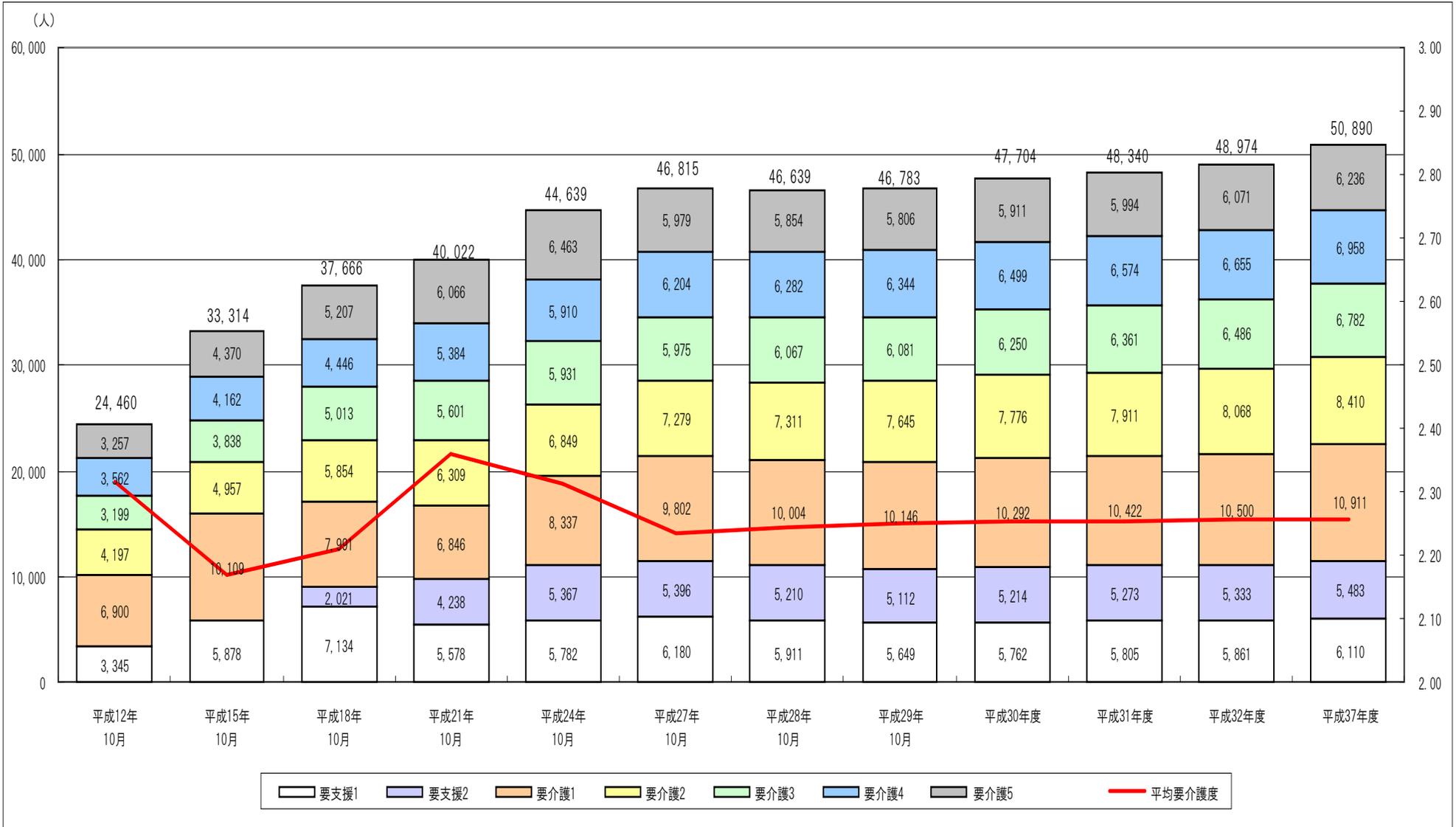
資料：平成27年以前は国勢調査結果(総務省統計局)、令和2年以降は都道府県の将来推計人口(平成30年 国立社会保障・人口問題研究所)

【高齢者のいる世帯の割合（高知県）】



資料：国勢調査結果（総務省統計局）

○要介護（要支援）認定者数の推移と今後の推計



資料：介護保険事業状況報告及び各市町村推計による

日本一の健康長寿県づくり

～「県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることのできる高知県」の実現を目指して～



I 壮年期の死亡率の改善

平成37年度末の目指す姿

健康管理に取り組む人が増え、壮年期の過剰死亡が改善されています。

がん予防の推進

- ・がん検診の意義・重要性が浸透し、利便性の向上により受診行動に結びついている。

血管病対策の推進

- ・血管病の早期発見・早期治療等により、重症化が予防されている。

健康教育の推進

- ・子どもの頃から健康的な生活習慣が定着している。

「ヘルシー・高知家・プロジェクト」の推進

- ・県民の健康意識が醸成され、健康的な保健行動が定着している。



II 地域地域で安心して住み続けられる県づくり～「高知版地域包括ケアシステム」の構築～

平成37年度末の目指す姿

県内どこに住んでいても必要な医療、介護サービスを受けられ、健やかに安心して暮らしています。

日々の暮らしを支える 高知型福祉の仕組みづくり

- ・あったかふれあいセンターのサービス提供機能が充実・強化され、高知型福祉の拠点として整備されている。
- ・地域の実情に応じて、多様な介護予防や日常生活を支援するサービスの提供体制が整備され、在宅生活のQOL向上につながっている。
- ・地域における発達支援が必要な子どもたちへの支援体制が整備されている。
- ・障害のある人の一般就労への移行が促進されている。

地域医療構想の推進

- ・地域の実情に応じた医療提供体制の構築により、一人ひとりにふさわしい療養環境が確保され、QOLの向上が図られている。

介護が必要になっても地域で 暮らし続けられる仕組みづくり

- ・在宅医療や介護に関わる医療機関や介護サービス提供事業者が増え、在宅での療養者が増加している。

病気になっても安心な 地域での医療体制づくり

- ・若手医師の減少や地域・診療科間の医師の偏在が緩和されるとともに、必要な看護職員が確保されている。
- ・救急医療の適正な受診が進むとともに、救急医療機関の間の連携により救急医療が確保されている。

III 厳しい環境にある子どもたちへの支援

平成37年度末の目指す姿

次代を担う子どもたちを守り育てる環境が整っています。

子どもたちへの支援策の抜本強化 保護者等への支援策の抜本強化

- ・厳しい環境にある子どもたちの学びの場や居場所の充実、保護者等への就労支援の強化などにより、子どもたちの進学や就職の希望が叶うとともに、貧困の連鎖が解消に向かっている。
- ・無職少年等の自立と就労支援に向けた取り組みなどにより、少年の非行率や再非行率などが減少している。

児童虐待防止対策の推進

- ・児童虐待などへの相談支援体制が抜本強化されるとともに、地域で要保護児童を見守る仕組みが定着している。

IV 少子化対策の抜本強化

平成37年度末の目指す姿

県民総ぐるみの少子化対策が進み、職場や地域で安心して子どもを産み育てることのできる環境が整っています。

「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」 の取り組みなどによって、少子化対策を 官民協働の県民運動として展開

- ・「結婚、妊娠、出産」は個人の自由であることを大前提に、支援を望む方の希望がより早く叶えられ、理想とする子どもの人数の希望が、より叶えられている。

V 医療や介護などのサービス提供を担う 人材の安定確保と産業化

平成37年度末の目指す姿

医療や介護などのサービス需要に適應する人材が安定的に確保されるとともに、地域で雇用を創出する産業として育成・振興されています。

福祉・介護職場で活躍する人材の安定確保と サービスの質の向上

- ・介護事業所認証評価制度の普及により、介護人材の定着率の向上と新たな人材の確保が進んでいる。
- ・介護福祉機器等の普及など、ノーリフティングケアの拡大や、ICTの利用率の高まりにより、職員・利用者の安全・安心と業務の効率化が進んでいる。
- ・「介護助手」など多様な働き方が広がるとともに、福祉人材センターのマッチング力の強化により、新たな人材の参入が進んでいる。

大目標Ⅱ 地域地域で安心して住み続けられる県づくり ～「高知版地域包括ケアシステム」の構築～

本人の意向に沿ってQOLを向上させることを目指した「高知版地域包括ケアシステム」の構築の取組を加速化！



サービス資源のさらなる充実

地域地域で必要なサービスが確保できるようこれまでの取組を充実強化！

●発病を遅らせる仕組みづくり

- 地域の介護予防の取組の活性化のためのリーダーの養成
- 高齢者の状況に応じた介護予防プログラムの検討
- 高知家健康パスポートを活用したポピュレーションアプローチの強化
- あったかふれあいセンターの整備と機能強化

●入退院から在宅生活への円滑な移行

- 入退院時の引継ぎルール運用・改善への支援
- 退院支援指針を活用した退院支援体制の構築及び人材育成
- ICTを活用した医療と介護の情報共有の推進

●救急医療の確保・充実

- 救急医療関係機関の連携強化
- 休日夜間の医療提供体制の確保
- ドクターヘリの円滑な運航



●在宅サービスの量的拡大への支援

- 訪問看護ステーションの体制強化への支援の検討
- 小規模多機能型居宅介護事業所の整備促進
- 在宅訪問薬剤師の養成と訪問による服薬支援の強化
- 中央・幡多圏域に加え安芸圏域に在宅歯科連携室を設置

●療養病床の介護医療院等への転換支援

- セミナー等を通じた先進事例や関連情報の周知
- 転換を検討する際のシミュレーション費用への支援
- 介護医療院等への転換整備費用の支援

連携の仕組みづくり

医療・介護・福祉の接続部を担う人材（ゲートキーパー）の機能強化と切れ目のないネットワークの構築強化！

ゲートキーパーの機能強化

- 支援を必要とする高齢者を見つける力の強化
 - 民生委員・児童委員の活動支援、研修実施
 - あったかふれあいセンター職員のスキルアップ
- 個々の状態に応じた支援（在宅・入院・介護）につなぐ人材の機能強化
 - 総合診療専門医の養成策の強化
 - ケアマネジャーの資質向上への支援

●ネットワークの核となる地域包括支援センターの機能強化

- 地域包括ケア推進監等による個々のセンターへの支援の強化
アドバイザーの派遣等によりネットワーク構築に向けての課題解決の取組を推進
- 地域包括支援センターの人材確保への支援
主任ケアマネジャーの確保につなげる研修の実施
- 地域ケア会議の推進
「高知県版地域ケア会議ガイドライン」の改正により地域ケア会議を活用した先進取組事例を横展開

入院から退院、在宅までの流れを支援する仕組みづくり

- 「地域包括ケア推進協議体」を活用した顔の見える関係づくりへの支援
- 入退院時の引継ぎルール運用・改善への支援（再掲）

- 退院支援指針を活用した退院支援体制の構築及び人材育成（再掲）
- ICTを活用した医療と介護の情報共有の推進（再掲）
- 在宅医療に係る情報を多職種間で共有するシステムを普及（高知家@ライン）

障害のある人もない人も、
ともに支え合い、安心して、
いきいきと暮らせる社会づくり

- 発達障害児者及び家族支援の充実
- 医療的ケアの必要な乳児の受け入れ体制の整備
- 農福連携促進コーディネーターによる施設外就労の促進 など

心の健康づくりの推進

- 妊産婦等のメンタルヘルス対策
- 依存症治療の体制の整備

住民主体の介護予防の取組の背景

- ✿ 交通が不便な中山間地域の多い中、身近な地域で誰もが参加できる介護予防活動の場づくりが必要である
- ✿ 高知市の「いきいき百歳体操」の取組など、先進取組事例のノウハウを活かして取組をさらに拡大・定着を図る



高知市の取組（いきいき百歳体操）

介護予防の取組の変遷

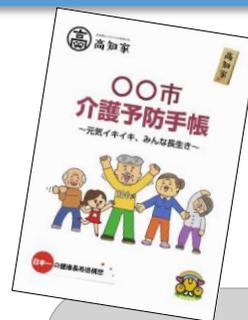
- **平成14年度**、運動機能向上プログラム「**いきいき百歳体操**」を作成し、モデル事業を実施し効果を確認。
- 住民が主体的に取り組むことができるよう、住民が集っている場での健康講座を活用し、地域での「いきいき百歳体操」の普及啓発活動を実施。
- 「いきいき百歳体操」に取り組む条件として、①週 1～2回の頻度で最低 3ヶ月以上は継続すること、②地域の誰でも参加可能、を設け、住民から“やってみたい”と声があがるまで待った。
- 住民から実施希望があった場合に、保健師や理学療法士等が支援。
- **平成17年度**、さらに口腔機能向上の取り組みを進めるため、住民が主体的に取り組みやすい口の体操「**かみかみ百歳体操**」を作成し、モデル事業を実施して効果を確認。
- 地域に根付いた「いきいき百歳体操」の集いを活用し、「かみかみ百歳体操」を併せて実施できるよう、要望に応じてインストラクターを派遣するなど、支援を行う。
- **平成27年度**、認知機能の維持・向上を目的とした「**しゃきしゃき体操**」を作成



出典：厚生労働省HPより抜粋

高知県の住民主体の介護予防の取組

- ✳ 内容
いきいき百歳体操（アレンジも含む）、かみかみ百歳体操など
- ✳ 住民主体の介護予防の取組箇所数
H22.3月末：959 → H31.3月末：1,427
- ✳ 地域リーダー・サポーター数
H22.3月末：2,743人 → H31.3月末：4,244人
- ✳ 総合事業又は介護予防事業にリハビリテーション専門職が関与している保険者数
H28.3月末：17保険者 → H31.3月末：30保険者



【県の取り組み】

① 本県独自の「介護予防手帳」を作成（H22～）

② 地域リーダー・サポーターの育成

目的：介護予防活動の担い手となる地域リーダーの育成等を支援する

対象：地域リーダーの養成や地域リーダー向けの指導を希望する市町村等

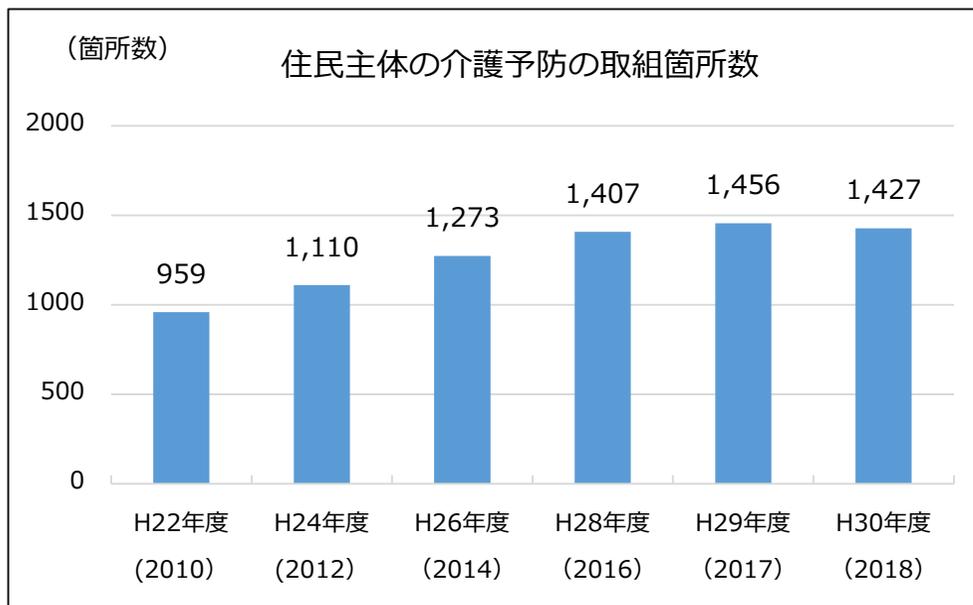
派遣団体：リハビリテーション職能三団体協議会

③ リハビリ専門職による助言

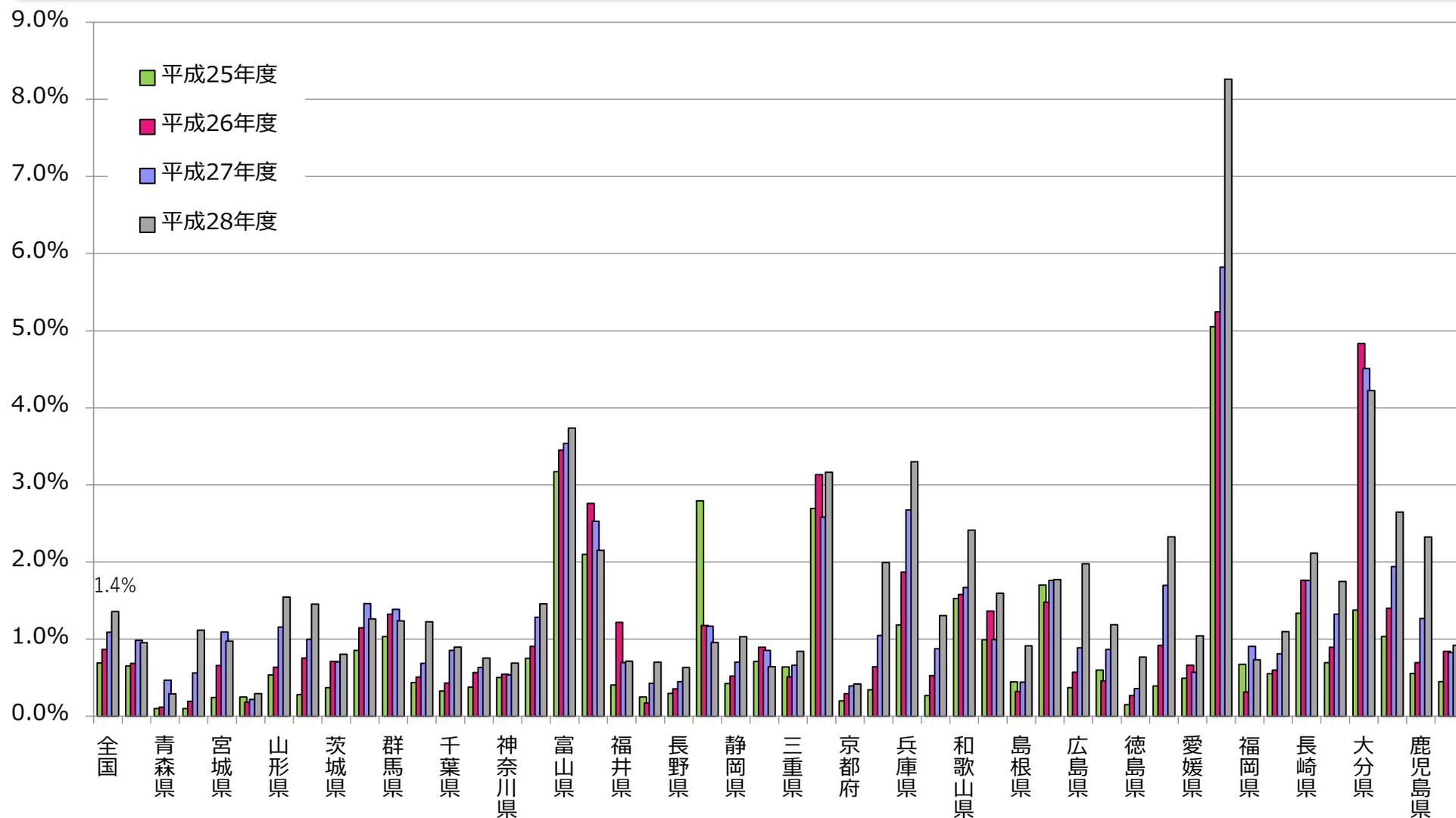
目的：市町村の介護予防事業においてリハビリテーション専門職等の助言を得られるように支援する

対象：介護予防事業に関与する専門職の紹介を希望する市町村

派遣団体：リハビリテーション職能三団体協議会、栄養士会、歯科衛生士会



通いの場（週1回以上開催の通いの場）への参加率（都道府県別）



※週1回以上の通いの場への参加率 = 開催頻度が週1回以上の通いの場の参加者実人数 / 高齢者人口

出典：厚生労働省老健局老人保健課

「あったかふれあいセンター」の整備

現状・課題

- 中山間地域では、介護や子育て、自立支援など多様なニーズがありながらも、縦割りで全国一律の基準の福祉サービスでは、それぞれのサービスの利用者が少ないことから、サービスが提供されにくい状況となっている
- 本県は全国に先行して人口減少や高齢化が進んでおり、これまで地域が担ってきた支え合いが弱まっている

必要となる対策

- 地域のニーズに効率的・効果的にサービス提供が可能な拠点の整備
- 年齢や障害の有無にかかわらず、小規模でも1箇所で多様なサービスを提供する仕組みの構築



「あったかふれあいセンター」の整備(平成21年度～)

子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる拠点として整備

(既存の福祉制度の枠組みを超えて、1ヶ所で必要なサービスを提供することが可能)

H21年～23年度までの3年間ふるさと雇用再生特別交付金を活用し、事業をスタート。

R元年度財源：運営費総額 720,778千円

・県単独補助金活用分	614,186千円	
(財源内訳)	県単独補助金	289,447千円
	市町村費	294,268千円
	その他	30,471千円

・過疎対策事業債活用分 106,592千円



「あったかふれあいセンター」の機能について

小規模多機能支援拠点（地域福祉の拠点） あったかふれあいセンター

◆基本機能

①集い+ α 概ね週5日実施
(預かる・働く・送る・交わる・学ぶ・等)

日中の居場所・見守りの場

●高齢者

- ・元気な高齢者や介護認定者の居場所
- ・介護予防、介護サービスの補完
- ・生活に不安のある方や、閉じこもりがちな方の居場所

●障害者

- ・日中の居場所・社会参加や就労支援の場

●子ども

- ・学童保育を利用していない小学生の居場所
- ・放課後、長期休暇中の居場所

●その他

- ・引きこもりがちな若者の居場所
- ・乳幼児を連れてきた母親の居場所

②訪問・相談・つなぎ
概ね週2日実施

地域福祉ネットワーク
の構築

- ・住民参加による地域での見守り・早期発見、つなぎのネットワーク
- ・住民からの相談対応
- ・緊急時の対応の仕組みづくり など

③生活支援
ニーズに合わせて適宜実施

新たな支え合いの仕組みづくり

- ・生活支援サービスや支えあいの仕組みづくりとコーディネート
- ・地域活動(介護予防やサロン活動等)のサポート
- ・ボランティアの人材育成 など

◆拡充機能

移動手段の確保・配食・泊まり・介護予防・認知症カフェ・子ども食堂
地域のニーズに応じて機能を拡充

◆拡充機能

①移動手段の確保

- ・買物や通院のための移動支援

②配食

- ・高齢者等の食の確保や栄養改善を目的とした配食

③泊まり

- ・緊急時に支援が必要な高齢者等を一時的に泊める

④介護予防

- ・リハビリ専門職等と連携した介護予防プログラムの実施

⑤認知症カフェ

- ・認知症やその家族が参加できる集いの場の提供

⑥子ども食堂

- ・食事の提供を通じて子どもや保護者の居場所を提供



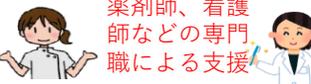
保健
機関

医療
機関

行政
機関

地域福祉ネットワーク

専門
機関



薬剤師、看護師などの専門職による支援

老人クラブ

地域住民

運営協議会
小地域

ボランティア

民生委員・児童委員

介護
事業所

訪問(アウトリーチ)による把握



つなぎ

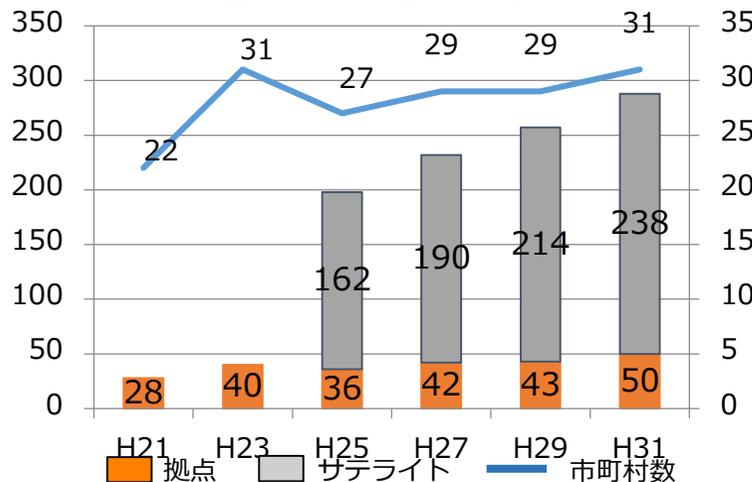


地域包括
支援センター

「あったかふれあいセンター」の整備状況、利用状況

【整備状況】

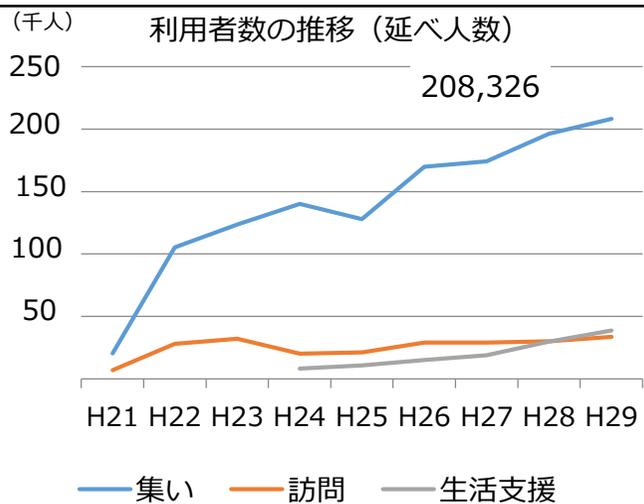
設置市町村数・箇所数の推移



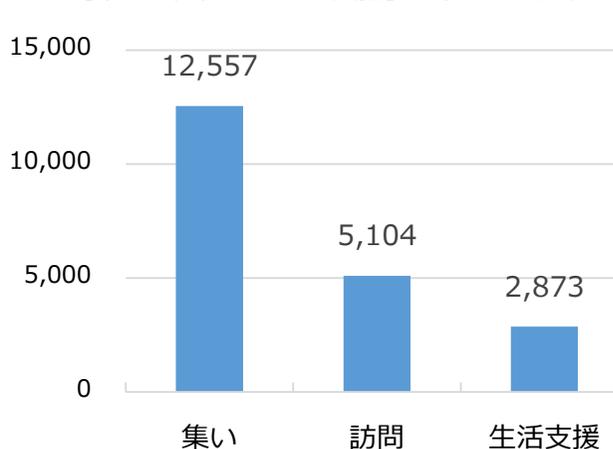
あったかふれあいセンター設置状況(H31.4.1)



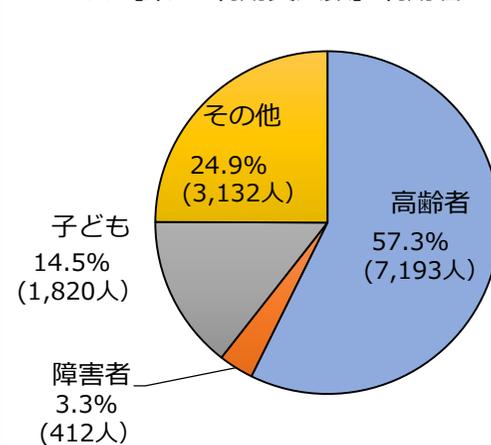
【利用状況】



H30【集い・訪問・生活支援】の利用者実人数



H30【集い:利用実人数】利用者の内訳



「あったかふれあいセンター」の多様な活動

地域福祉の拠点として整備してきたあったかふれあいセンターは、それぞれの地域のニーズに基づき、多様な活動へと拡がりを見せています。



- 介護予防の取り組み (いきいき百歳体操)
(田野町あったかふれあいセンター)

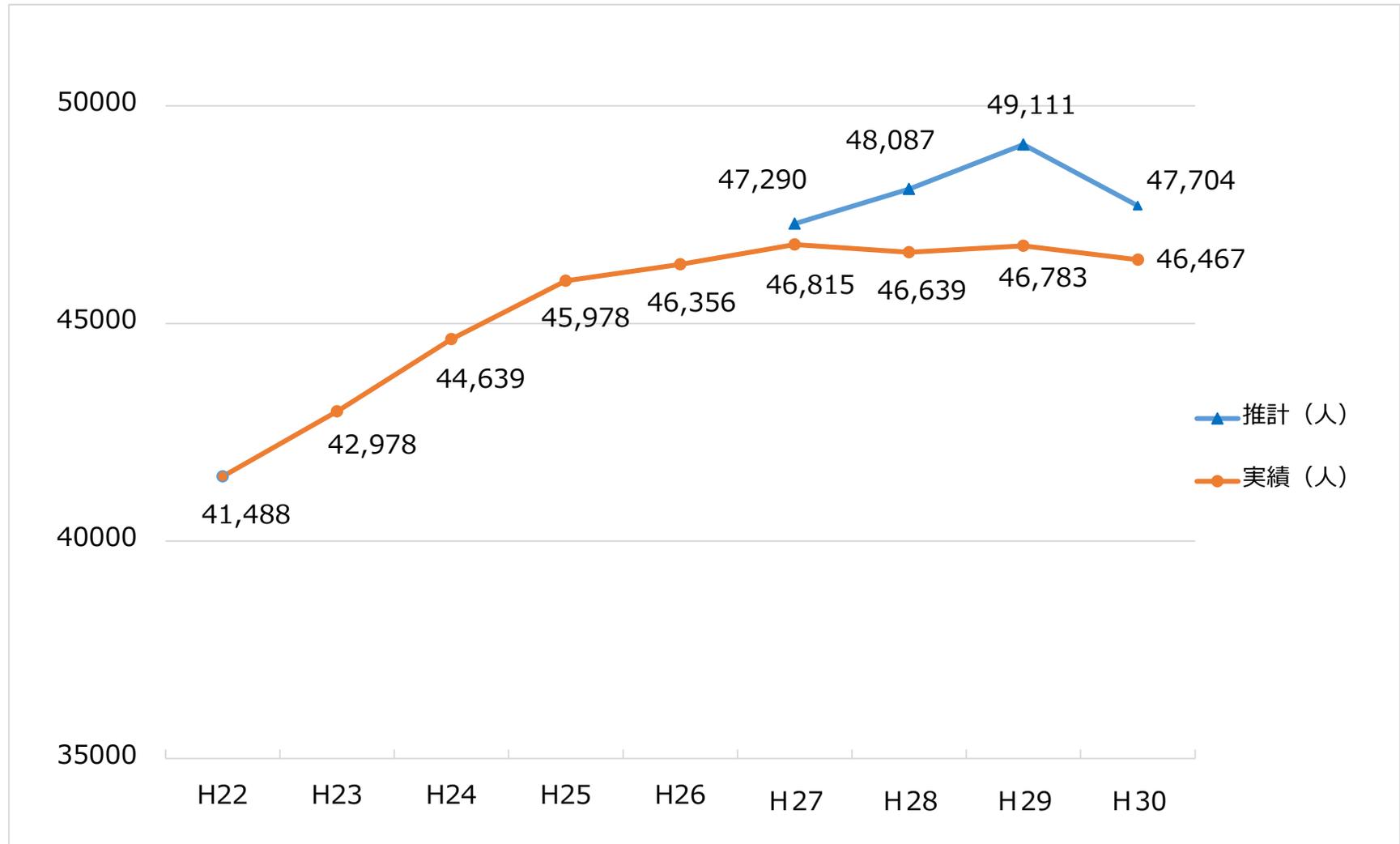


- にここ食堂
(田野町あったかふれあいセンター)



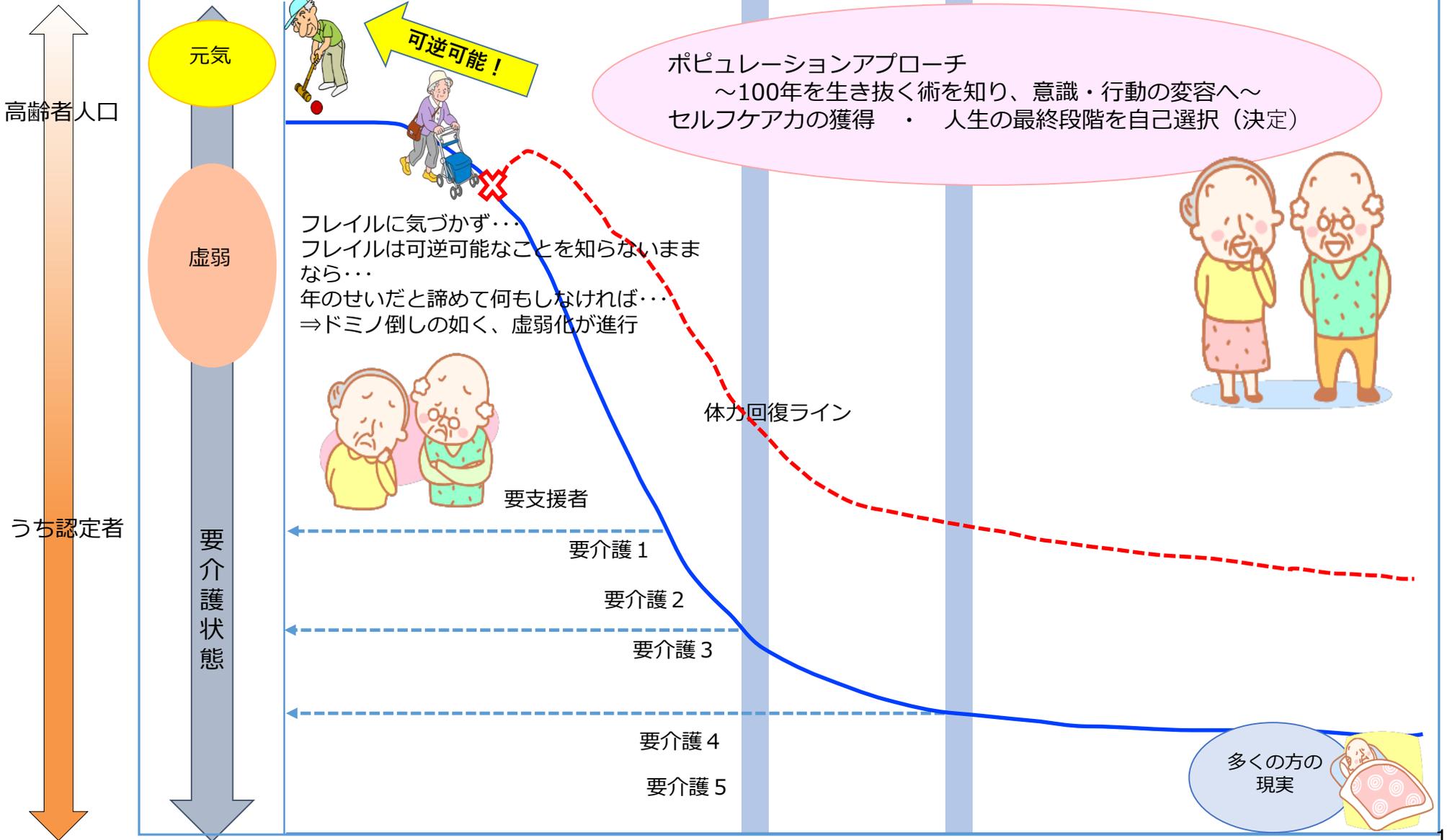
- 認知症カフェ
(中土佐町あったかふれあいセンター寄り家)

高知県における要介護（要支援）認定者数の推計と実績



今後の重点的な取組(フレイル予防)

人生100年時代を生き抜く(イメージ図)



高知家健康会議の開催

■開催趣旨

県民の誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる高知県の実現を目指し、県内の保健医療福祉関係団体、保険者、経済団体、報道機関などの民間組織や教育機関、行政機関など幅広い分野の関係者が連携し、一丸となって県民の生活の質（QOL）の向上を図る

■推進テーマ

- ①予防・健康づくりの推進 ②健康経営の推進 ③高知版地域包括ケアシステムの構築

■これまでの開催

第1回 H30.11.22

- 講演①「持続可能な社会保障にするために」
②「健康なまち・職場づくり宣言2020の達成状況」
③「健康なまち・職場づくりの課題と政策の方向性」

第2回 R1.7.11

- 講演①「日本一の健康長寿県構想の取組」
②「認知症施策の推進」
③「医薬品の適正使用」

第3回 R1.10.10（予定）

- 講演①地域包括ケアにおけるフレイル予防政策（仮）
②高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について

